

イエスが下さる本当の平安

ヨハネ福音書14:27-31

【新改訳 2017】

14:27 わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。

14:28 『わたしは去って行くが、あなたがたのところに戻って来る』とわたしが言ったのを、あなたがたは聞きました。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くことを、あなたがたは喜ぶはずです。父はわたしよりも偉大な方だからです。

14:29 今わたしは、それが起こる前にあなたがたに話しました。それが起こったとき、あなたがたが信じるためです。

14:30 わたしはもう、あなたがたに多くを話しません。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることができません。

14:31 それは、わたしが父を愛していて、父が命じられたとおりに行っていることを、世が知るためです。立ちなさい。さあ、ここから行くのです。

【祈りながら考えよう】

- (1) 主が弟子たちに与える「平安」は、世が与える平安とどう違いますか。
- (2) ヘブライ語「シャローム」の意味を説明して下さい。
- (3) 主が私たちに「真の平安」を与えることができるのはなぜですか。

【解 説】

(1) 平安のない状態

私たちが生きているこの世は、心の休まる暇がない。私たちは、いつも何かによって心を騒がせて、恐れおののいている。1つの問題が解決されるとまた別の問題という具合に、次から次へと問題が起こってくる。

その中には、病気とか貧困ということから来る問題もあり、仕事上のこともあり、人間関係の問題、家庭の問題、将来に対する不安、死への恐れ、また自分自身への不満等、絶え間なく問題が起こってくる。

こういう問題に対して、どういうふうに対処したらよいのか、私たちの心は恐れと、まどいに苦しめられる。ある人は、余りの苦しみで、ノイローゼになり、また他の人は、精神的に異常を来してしまう。

(2) 世が与えるのと同じようではない

こういう悩み、苦しみの中にいる現代人に対して、主イエス・キリストは明快な解答を持っておられ、それを私たちに与えて下さる。主はこう言われた。

「わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。」

私たちが恐れたり、心を騒がせたりする必要のない本当の平安を与えて下さるといっているのである。

確かに、どんな人でも心に平安を持つことは大切なこと。人はこれを求めて、いろいろなものを探求してきた。そして、その人々の求めを満たそうとして多くの宗教が生まれた。しかし、主が与えて下さる平安は、「世が与えるのと同じよう」ではない。どこが違うのか。

(3) シャロームの意味

まず「平安」[𐤑𐤍 eiprῑm (エイレーネー) / שָׁלוֹם (シャローム)]という言葉から見たい。普通一般に考えられているのは、心がいらいらしないとか、争いごとがないことであるが、主が「平安」と言われた時、主はヘブル語シャロームという言葉が使われたわけで、このシャロームという言葉は、もっと深い意味を持っていた。

たとえば、「不和に対する和解、不安に対する安全、病気に対する健康、貧困に対する繁栄、未完成に対する完成、乱れに対する統一、罪と世に対する勝利、暗闇からの救い等」といった極めて幅の広い意味を持った言葉で、「聖書が教えている救い」とは、実はこういうものにほかならない。

旧約時代の預言者たちは、このような平和の状態をメシアの到来と結びつけていた。新約時代では、このヘブライ語の「シャローム」が意味することと同じ意味をもって、「平安」「平和」という言葉が使われた。

しかし、それは、イエスによる十字架のあがないからくる「平安」「平和」、神と人との断絶関係が、イエスの十字架によって和睦に導かれた結果としての「平安」「平和」である。

現代のイスラエルにおいては日常の挨拶—「こんにちは」、「さようなら」—用語である。ちなみに、ギリシャ語の挨拶はエイレーネーであるが、「平安があなたがたにあるように」(エイレーネー・ヒュミーン)。これも「こんにちは」とか「こんばんは」という挨拶として使われている。

(4) どうして私たちに下さることができるのか

このような内容を持った「平安」を、主はどうして私たちに与えることができるのか。それは、これに続いて主が語られた言葉の中に、その理由を見ることができる。

『わたしは去って行くが、あなたがたのところに戻って来る』とわたしが言ったのを、あなたがたは聞きました。わたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くことを、あなたがたは喜ぶはずです。父はわたしよりも偉大な方だからです。今わたしは、それが起こる前にあなたがたに話しました。それが起こったとき、あなたがたが信じるためです。

ここで、主が「わたしは去る」とか、「わたしが父のもとに行くことを喜ぶはずです」とか、「それが起こる前に」とか、「それが起こったとき、あなたがたが信じるためです」と言っておられることがそれである。

主イエス・キリストは、弟子たちから離れて、父なる神のみもとに行こうとしておられる。父なる神のみもとに行くには、「十字架の死」という出来事がある。主イエス・キリストは、不安におののき恐れ、心を騒がし続けている者たちに「平安」を与えるために、十字架にかかって死ななければならなかったのである。

(5) 利己的な考え方から解放される

私たち人間が恐れおののき、心を騒がせずにはいられないのは、「心に罪があるから」である。あらゆる問題の根本的原因である罪から、問題が起こってくる。罪はいつでも、「利己的な考え方」を私たちにさせるから、何かが起こった時、「自分に都合のいいようになることが解決だ」と思う。

しかし、あいにくそうはいかないため、私たちは悩み、苦しむ。心は騒ぎ始め、いらいらが起こる。しかし、キリストが十字架上で私たちの罪を身代わりに背負い、その罪のための刑罰を受けて下さったことによって、私たちの罪を処理して下さったので、そのことを感謝をもって受け入れ、キリストを私の救い主として信じる時、私たちの罪はすべて赦され、「利己的な考え方から解放される」ことができる。

そうする時、何か問題が起こっても、自分に都合のいいように解決されることを願うよりも、主の解決こそが最善なのだということが分かって、主にすべてを任せることができるようになる。その時、主は私たちの心に、言うことのできないほどすばらしい平安を与えて下さる。その平安は、「キリストの血によって勝ち取って下さった平安」である。

(6) 悪魔の攻撃にも対応できる

「わたしはもう、あなたがたに多くを話しません。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることができません。それは、わたしが父を愛していて、父が命じられたとおりに行っていることを、世が知るためです。立ちなさい。さあ、ここから行くのです。」

悪魔は、私たちの弱点を知っているから、そこを突いて、私たちに失敗をさせようとする。そして、私たちは主の助けを頂き、神の備えてくださった武具を身に着けない限り、失敗してしまう弱い者たちである(エペソ10-18)。

そして、完全で、聖く、正しく、真実な主が、私たちのために用意し、与えて下さるのが、「主の平安」である。この世の何ものにも勝る贈り物、「平安」という救いを、主は私たちのために残して下さった。

この「平安」が与えられる時、私たちは肉体的いやしもさることながら、もっと素晴らしい霊的健全さが与えられ、心は満ち足りて豊かになり、動揺することなく、いつも落ちついていて、あらゆる人に対して心が開かれており、柔和で、しかも確信を持った生き方をすることができる。

たとい病気が癒やされなくても心は健康であり、貧しい生活の中にあっても、心は豊かであって、思い煩うことのない、明るい生き方をすることができる。というのは、その人の霊はすでに罪の赦しを経験し、いつも主が共にいてくださるからである。

主イエスが下さる本当の平安というものは、このようなものである。この世の平安は、何かが起こると、すぐに心が波立ち、いら立つものであるが、主の下さる平安は、あたかも動くことのない深海に錨を下ろしている船のように、たとい波風は吹き荒れても、びくともしないものである。